

「宇都宮藩の種痘」に関する図書の紹介

従来の研究では、明治維新後に天然痘の予防接種（種痘）が始まったとされていた宇都宮藩ですが、近年発見された史料の内容から、安政6年には種痘が行われていたことが明らかになりました。このことについて書かれた図書や、地域の医者への奮闘、当時の感染症の実態に関する図書を紹介します。閲覧、貸出を希望される方は中央図書館までお問い合わせください。

★講師著作

『栃木の流行り病 伝染病 感染症』

（大嶽浩良／編 下野新聞社 2021）【K490/オ/21】★

第一部「幕末・明治期の感染症」第一章「天然痘と種痘」

幕末（二）宇都宮藩の場合—宇都宮藩でも行われていた証拠発見

『近世下野の生業・文化と領主支配』

（下野近世史研究会／著 岩田書院 2018）【K200.5/シ】

「宇都宮藩の種痘と明治期における継承」（大嶽 浩良／著）P271～294★

『幕末・明治・大正 しおやの医療史』

（さくら市ミュージアム—荒井寛方記念館—／編・発行 2016）【K490/オ/16】

「宇都宮藩における種痘実施と明治前期の種痘」（大嶽 浩良／著）P1～P6★

『下野の明治維新』

（大嶽浩良／著 下野新聞社 2014）【K200.6/オ】★

第五章「幕末の民衆社会と諸事件」1.「種痘の実施」—「宇都宮藩の種痘」

『幕末・明治・大正期の医療』

（塩谷郡市医師会史編纂委員会／編 塩谷郡市医師会 2016）【K490/シ/16】

第一部「醫の歴史」第二章「感染症の歴史」第一節「天然痘」三「宇都宮の種痘」

『宇都宮市史』

（田代善吉／著 下野史談会 1928）【K210/オ】

第五編「維新前後より現今に至る」第四章「医事」の中に、「種痘は嘉永六七年頃より始めて宇都宮にて行へり」との記載あり。

『とちぎメディカルヒストリー』

（酒井シヅ／著 獨協出版会 2013）【K490/オ】

「栃木県のコレラ騒動」（大嶽 浩良／著）P266～287★

『宗教・民衆・伝統』

（地方史研究協議会／著 雄山閣出版 1995）【K160/チ】

「栃木県におけるコレラ騒動」（大嶽 浩良／著）P247～269★

『宇都宮市史 第8巻 近現代編2』

(宇都宮市史編纂委員会／著 宇都宮市 1981) 【K210/㍿/8】

第四章「医療と衛生」第一節「流行性伝染病」コレラと天然痘等の流行について掲載あり。

『宇都宮市史 第6巻 近世通史編』

(宇都宮市史編纂委員会／著 宇都宮市 1982) 【K210/㍿/6】

第五章「農村の変貌と荒廃」第一節「農村の荒廃」麻疹の流行について掲載あり。

『宇都宮医師会史Ⅰ』

(宇都宮市医師会史編纂委員会／著 宇都宮市医師会 1986) 【K490/㍿/1】

第一章「病気の変遷」明治期，大正期，昭和に分けて感染症の流行の変遷を掲載。

『宇都宮医師会史Ⅱ』

(宇都宮市医師会史編纂委員会／著 宇都宮市医師会 1986) 【K490/㍿/2】

第五章「回想」第二節診療百話の中に，麻疹等の記述あり。巻末に，年表「各種伝染病棟の発生状況一覧表」あり。

『氏家町史 史料編 渡辺清絵日記』

(さくら市史編纂委員会／著 さくら市 2011) 【K252/㍿】

栃木県さくら市（旧熟田村狭間田）の農民・渡辺清が明治35年から大正13年まで綴った35冊の絵日記。医療・衛生に関する記述あり。

『江戸幕府の感染症対策』

(安藤 優一郎／著 集英社 2020) 【498.6/7/20】

「過密都市」江戸は感染症の被害を受けやすかったが，都市崩壊のような事態には至らなかった。パンデミックを乗り切った「江戸の危機管理術」を解き明かす。

『感染症の日本史』

(磯田 道史／著 文藝春秋 2020) 【493.8/㍿/20】

歴史上，最も多くの命を奪ってきた脅威がパンデミックだ。平安の史書，江戸の随筆，百年前の政治家や文豪の日記などから新たな視点で日本人の知恵に光を当てる。

『江戸のコレラ騒動』

(高橋 敏／著 KADOKAWA 2020) 【210.5/㍿/20】

安政5年，コレラが流行。時の人々がどのようにコレラと闘ったのか，東海の村に残る記録を再現。新型コロナ騒動を彷彿とさせる，おかしくもたくましい庶民たちの姿を活写する。

館内閲覧のみの資料も含まれています。
この他にも資料がありますので，図書館職員に
お気軽にご相談ください。

宇都宮市立中央図書館
〒320-0845 宇都宮市明保野町7番57号
TEL：028-636-0231 FAX：028-639-0740
9:30～19:00（金曜休館）（令和5年1月作成）